

～みんなにやさしいまちに～
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進事業 活動報告書
〈平成28年度〉



平成29年3月
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進部会

<目 次>

I. モデル地区推進事業	1
II. 植水小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	12

I. モデル地区推進事業

1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

2. これまでのモデル地区推進事業

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区 : 高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区 : 仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区 : 大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区 : 桜木小（平成21年度）

- 平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区推進事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応しました。

- さいたま新都心周辺 : 下落合小（平成23年度）
- 南浦和駅東口地区 : 大谷場中（平成24年度）
- 岩槻駅東口地区 : 岩槻中（平成25年度）
- 大宮駅東口地区 : 大宮北小（平成26年度）

- 様々な地域における小中学校の協力のもと、年1回モデル地区推進事業を実施してまいりましたが、安定した参加者数を確保できない点が課題でした。

そこで、第3期（平成27年度から平成31年度）については、地域の自治会、民生委員・児童委員、PTA、保護者、地区社会福祉協議会、NPO等に対して働きかけを強化し、よりモデル地区推進事業を拡大することで、地域ぐるみで福祉のまちづくりについて学び合う場を作ることを目指します。

- 与野本町駅西口地区 : 神田小（平成27年度）

3. 活動イメージ

- 「広報・PR」、「市民参加の促進」、「施設整備の促進」をキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、当事者との交流、障害等の体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。

なお、小・中学校での学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携し

て行っています。

4. 組織

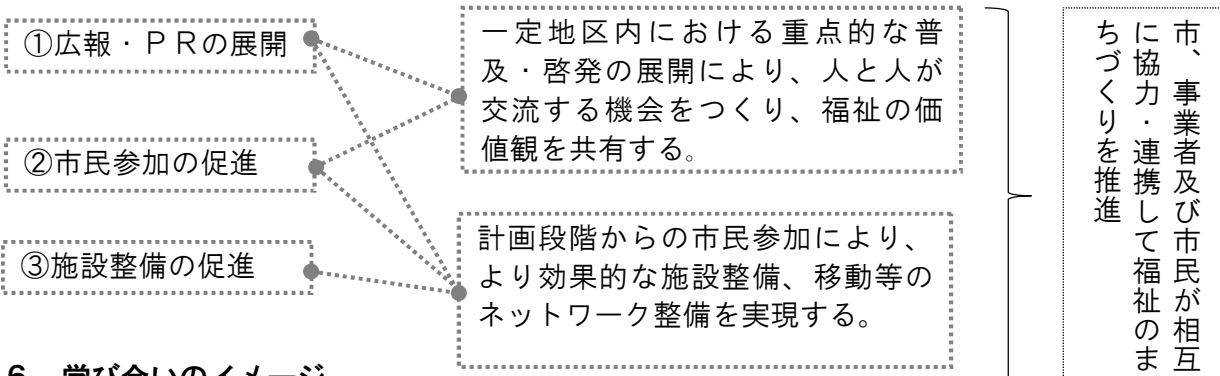
- 「さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、市民代表によって組織され、モデル地区推進事業を展開しています。

5 モデル地区推進事業の展開

- 地区内の学校と協力した福祉教育の展開、地区の現状調査やマップづくり活動、イベントと連携した福祉のまちづくりのPR等を実施します。

推進指針の施策の方針

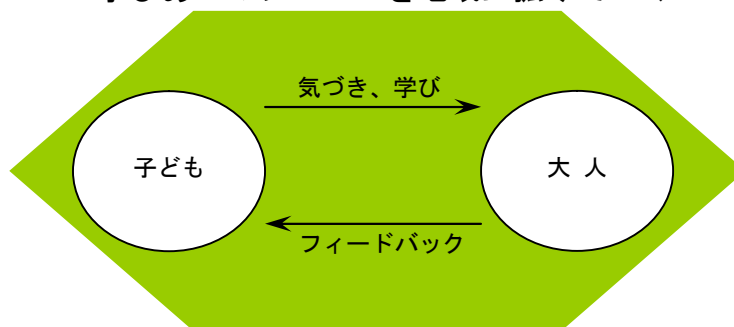
(福祉のまちづくり3つの視点)



6 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。

学びあいのプロセスを地域に拡げていく



Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区推進事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりをともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす保護者や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や関係者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

平成28年度は、西区にある植水小学校に協力をいただいて実施しました。

植水小学校での取組について

植水小学校では、4年生（76名）を対象に実施しました。

(1) 取組の概要

【参加者】

さいたま市福祉まちづくり推進協議会委員の他、視覚・聴覚・知的の各障害者団体、NPO団体、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会、市社会福祉事業団などが参加しました。

【テーマ ～みんなで歩むこれからの植水～】

植水と新都心、バリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較するなど、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考えていきました。

【実施計画】

過程	子ども達の活動	
ふれる	<u>ふれあい学習</u>	・ 高齢者や障害者の方と接し、バリアフリー等についてより詳しく知る。 ⇒課題決定
つかむ	<u>まち歩き学習</u> 自分たちのまちについて考える	・ どのようなところにバリアフリーがあるか。 ・ バリアフリーが必要な場所はどこか。 ・ 自分たちにどのようなことができるか。 ・ 自分たちのまちに課題はないか。

深める	新都心見学	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインやバリアフリーで身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。 ・植水地区と新都心、バリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較することで、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようなになってほしいかを考える。
	調べる 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ人の、よりよい生活の仕方を考える。 ・街中の施設や店、駅、道路にされている工夫などを調べ、自分たちのまちに生かせないか考える。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインについて考える。
まとめる	『みんなで歩むこれからの植水プラン』を考える 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・植水地区に住む全ての人々にとって、「便利・住みやすい・安心」なまちはどのようなまちか、その方法を考える。 ・これからどのように歩いていくか、自分なりに考える。 ・自分たちがすぐにでもできること、ということを考える。 ・偏見や差別をしないこと、知らない人にも教えること、正しく使うこと。
	学習発表会	学習を通じて感じたことを交流しあい、自分ができるそうなることに取り組んでいく意欲を高める。



(2) ふれあい学習

日程：平成28年9月27日、

会場：植水小学校各教室・体育館

参加者：児童、保護者、障害者団体等、117名

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、ボランティアグループシャンティ、植水地区社会福祉協議会

内 容

【目的】

- ・当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について関心をもち、その特性などを理解する。

【ねらい】


- ・自分と異なる感覚や暮らしの方法があることを、交流を通じて理解する。
- ・疑似体験により暮らしの中で何がバリアなのか知る。





⇒児童や周りの大人が、普段なかなか出会ったり関わったりしない方との交流により、当事者について考えたり、気づいたりできる「きっかけ」にする。

【活動内容】

- 当事者等が自身についての話をし、自分達の生活や想いを児童に伝えました。
- 当事者が普段使用している道具に触れるなどの各体験等の学習を通して、それぞれの特性について理解を促す。

⇒児童の関心をさらに引きつけ、生活についてイメージできる「きっかけ」にする。

	学習内容	学習の様子
視覚	<ul style="list-style-type: none"> ・アイマスクと白杖を身に付けて、視覚障害の体験をするとともに、介助の仕方や声掛けの大切さを学びました。 ・点字機等の生活に関連するものや、触って分かるオセロ等の紹介がありました。 	

<p>聴覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と講師が、手話によるあいさつや自己紹介により交流をしました。 ・チャイムを押すと振動で来客を知らせる器具など、日常の生活について学びました。 	
<p>知的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストボードや身近なキャラクターなどを用いて、知的障害について理解を深めました。 ・ジェスチャーでのコミュニケーションや、パニックになったときでもやさしく見守ってほしいことなどを学びました。 	
<p>車いす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害者は可哀想、大変」というイメージを、「クイズ」や「電動車いすサッカー」等を通じて、変えていきました。 ・電動車いす体験や、二人一組になっての車いす体験と介助の仕方を学びました。 	
<p>高齢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師からの話を聞き、高齢者の身体状況や認知症について学びました。 ・高齢者疑似体験グッズを身に付け高齢者の日常動作を体験し、どのように接したらよいのか学びました。 	

(3) まち歩き (小学校周辺)

日程：平成28年10月12日

会場：植水小学校周辺 (通学路)

参加者：児童、保護者、障害者団体等、計109名

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、ボランティアグループシャンティ、植水地区社会福祉協議会

内 容

【目的】

- ・ 障害等の体験により歩きなれた道 (通学路) について視点を変えることでギャップを実感する。
- ・ 当事者の方と交流しながら歩き、その方たちがどのように感じているのか知る。
⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけ、気づきを促す。

【ねらい】

- ・ 実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解する。
- ・ 一人ひとりの能力がハンデの原因なのではなく、環境 (バリア) が、ハンデを生むことに気づく。

【活動内容①】

○学校周辺のまち歩き

グループに分かれて、子ども、当事者の方などと共に歩き、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用したりすることで、歩き慣れた道におけるバリア等について、多くの気づきを得られました。



【活動内容②】

○グループミーティング

まちを歩いてみて感じたこと、考えたことを情報共有することで、そこから派生するさまざまな意見交換を実施しました。



【活動内容③】

○一緒に給食

学習後、児童と講師と一緒に給食を食べながらより親密な交流を行いました。気軽な交流により、親近感を得ることができました。



(4) まち歩き(さいたま新都心駅周辺)

日程：平成28年11月16日

会場：さいたま新都心駅 けやき広場等

参加者：児童、障害者団体等、計92名

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、ボランティアグループシャンティ

内 容

【目的】

・植水地区とさいたま新都心駅周辺のバリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較することで、「だれもが住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考える。

⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけや気づきを促す。

【ねらい】

・ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。

・バリアフリーの整備状況が異なるまちを実際に歩くことで、バリアやバリアフリーについて理解を深める。

【活動内容】

○さいたま新都心駅周辺の点字ブロックやエレベーター、多機能トイレなど、バリアフリーの整備状況について、まち歩き体験を行いました。

○だれもが住みよいまちにするためにどのような工夫がされているか学びました。



(5) 学習発表会

平成29年2月28日、植水小学校 体育館

参加者：児童、保護者、障害者団体等、計175名

内 容

【目的】

子どもと大人との学び合いにより、自分たちのまちを「皆が住みよいまち」にするためにはどうすればいいのか、考え、行動していく、という福祉のまちづくりを地域に拡げていくきっかけとする。

【ねらい】

児童の豊かな感性から生まれるアイデアや気づき、子どもだから言える素直な意見を大人たちに伝え、植水地区に住む全員が考えるきっかけにする。

⇒大人たちに考えつかなかった発見や、自分たちのまちについて改めて見直すきっかけをつくる。

【活動内容】

○体験等の経験をもとに、児童一人ひとりが植水地区の課題等に対する自分としての考えを発表しました。

○大人から感想や質問によるフィードバックを受け、学び合いを行いました。

発表の様子



発表資料 児童が調べ考えた「みんなで歩むこれからの植水」のプラン



(6) 今後の活動について（学びあいのプロセスを地域に拡げていくために）

【平成28年度の事業を終えて】

植水小学校におけるモデル地区推進事業は、ふれあい学習では学習時間を増やし、当事者との交流時間の充実を図りました。また、さいたま新都心駅周辺でのまち歩き学習をモデル地区推進事業として実施するなど、事業内容を見直し・充実を図りました。

一方、ふれあい学習やまち歩き学習では地域の方や保護者等の参加が少なかったことから、今後は地域の方等の参加をさらに促す取組が必要と考えます。

また、発表会に参加した保護者等からも継続的に事業が実施されることを望む声が多かったことから、引き続き、学校が主体となって事業を実施できるよう支援が必要と考えます。

【今後の活動について】

1. 地域の方や保護者等の参加の促し

モデル地区推進事業は、児童への福祉教育だけではなく大人も参加し、地域ぐるみで「福祉のまちづくり」について学び合う場を作ることを目指しています。

今回は、体験学習、まち歩き学習に地域の方や保護者等の参加が少なかったことから、次回の事業実施にあたり、以下の点について特に留意して実施します。

(1) 学校との認識の共有

事業を連携して実施する学校に対して、本事業が地域ぐるみで「福祉のまちづくり」について学び合う場を作ることを目指していることについて理解していただくため丁寧に説明を行い認識の共有を図ります。

(2) 学校と市との役割の明確化

地域の方への事業の周知にあたり、学校と市の役割を明確化し、学校における地域の方々への周知に向けた取組状況について、市においても随時確認するとともに課題等がある場合には必要な支援を行います。

2. 学校主体による事業の継続

本事業が学校主体で継続的に実施されるために、学校に対して必要な支援を行います。

(1) 学校への支援

本事業は当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について関心を持ち、その特性などを理解することが重要であるため、講師を務めていただいた福祉関係団体やNPO等の協力が不可欠です。

学校から要望があった場合は、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、支援を行っていきます。

参加者の声から

ふれあい学習 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】 今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・これからの時代（高齢化・少子化・地域包括ケア）を考えたとき、このような取組が大切になってくると思います。
- ・「知的障害」と「高齢者」の学習に参加しました。ふたつのプログラムともに、「知的障害とは何か?」、「高齢者のもつ身体的な障害」を生徒に伝えたいとの工夫がなされていました。
- ・知的障害では、生徒からの知的障害者に関する質問を講師の方が真剣に答えて頂いたために、Q&Aで生徒は理解を深めたと思います。一方、高齢者では、やや生徒からの質問が少なかったとの印象を持ちました。全体的にももう少し質問の時間を割いてもよいのではないかと思います。
- ・学校側の取り組み、対応も良かったと思います。
- ・視覚障害の学習では、生徒の皆さんが校内歩行も真剣に行っていました。沢山の生徒が少しの時間ですが、体験できて良かったと思います。
- ・今回、初めて参加しましたが、15人くらいでの学習は距離感が近くてよかったですと思いました。

II 【問】 児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- ・生徒は、騒いだりよそ見をすることなく真摯な態度で学習していたと思います。この点では、好印象を持ちました。
- ・高齢者の学習では、生徒からの質問が少なかった感がありますが、使用した「体験グッズは本当ですか?」など素直な質問もありました。生徒に対する印象として、「もっと簡単な質問をもっと素直に聞くことができればよいのに」との印象を持ちました。
- ・生徒からの質問で、食事に関する自然な質問、疑問が出て良かったと思います。
- ・視覚障害の学習では、生徒の身近なオセロ、トランプの興味を持って頂き良かった。
- ・最初は、感想や質問が少なかったのですが、最後の方に質問をたくさんしてくれて嬉しかったです。知的障害については、わかりにくく、「みんな一緒に住んでいるの?」というような質問もありましたが、どんどん質問してほしいです。

III 【問】 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・高齢者疑似体験セットを使って学習しましたが、セット全部を子供たちにつけて体験してもらいましたが、実際にはお年寄りになっても体中がしぼりつけられるようなことは、めったにありません。学習・実技に移る前に、きちんとした説明があつて実技に入ることがより学習の効果があると思います。
- ・ふれあい学習の大きな目的は、「障害や障害者の生活、その特性を理解する」ことにあります。各講師は理解を深めるためにプレゼンテーションを工夫されていますが、やはり生徒と講師とのQ&Aにより理解が深まると思います。
- ・今回の企画も非常に良かったと思います。白杖を持つての体験をした中で、では街中で視覚の方を見かけたらどのような言葉、対応をしたら良いかなどのサポートを少しの時間でも課題に入れて行けると、もっと生きた体験になるのではないのでしょうか。
- ・児童は、筆箱をもって学習にのぞんでいましたが、メモする紙などを持っておらず役に立っていなかったようです。

まち歩き学習 参加者アンケート（抜粋）

I 【問】 今回の授業（まち歩き）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・今回は、聴覚障害のグループで「まち歩き学習」を行いました。生徒、聴覚障害者の方、聴覚障害者をアシストされた方すべての方がまじめに学習されており、好印象を持ちました。
- ・今回は、6人のグループで学習しましたが、障害者に質問する生徒が限られていました。できればより少数でのグループによる学習が望ましいと感じました。
- ・児童さん方の真剣な取組姿勢に感心しました。
- ・日常何気なく歩いている場所でも、段差、電柱など思いもかけない危険箇所が多いと感じました。
- ・校外でのイベント実施については、市や支援者達がいないとむずかしいと先生は言っていました。
- ・歩道がないところやますのふたが目が暗くで杖が入ってしまうところ、車の通りが多く危ないところがある。

II 【問】 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・生徒と聴覚障害者の中で交わされた会話の中で、外見では服装なども同じで聴覚障害者と見分けられないために、態度などで「聞こえない人かな？」と思うことが大切なこと。聴覚障害者にとって交差点はとて怖く、特に緊急車両が交差点を通過する場合、近づいてくることを知らせる信号などがあれば安心できること。狭い道では、特に自転車が怖いこと。自転車に乗っている人に怒られたり、差別の目で見られたりしていること。暗い道では手話が見えず、とても不便なこと。などの会話に強い印象を持ちました。
- ・道路に段差や穴（水路、排水路の蓋の隙間）が結構多い。また電柱や塀からの植木の枝も危険
- ・歩行中に自転車や車がくると恐くて立ち止まってしまう。
- ・自動販売機での区別がつきにくいこと。
- ・介助者の位置や手の置き方に工夫していたこと。
- ・児童の声が小さく聞き取りにくかった。

III 【問】 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・出発前の準備（グループや人数の確認など）が雑然としていて、無駄な時間が費やされました。そのためもあり、まち歩き後の校内でのグループ・ミーティングの時間がほとんど取れませんでした。
- ・生徒の役割分担は、「体験」、「介助」、「記録・聞き取り」、「インタビュー」に分かれて、それぞれ順番に行う計画になっていますが、生徒が正確に役割分担を理解しているとは思われませんでした。事前学習にもう少し力を入れるべきと考えます。
- ・参加児童が交代で役割を分担し、それぞれを体験していたが、これは大変良い経験であり、当事者意識を養い、ひいては障害者理解につながる。是非続けてほしい。
- ・高齢者体験に参加したが、声かけや注意点などの講師の指導がよかった。
- ・子どもたちが交代するときに、少しの時間でも振り返りをするとよい。
- ・ミーティングの時間が短かったため、時間配分について検討をお願いします。

平成29年2月28日 学習発表会 参加者アンケート（抜粋）

I 本日の学習発表会は、モデル地区推進事業と連携して行われています。この学習発表会に参加してのご感想、児童の言葉や発表内容で印象に残っているものがあれば、お聞かせください。

- ・どの生徒も細かくよく調べまとめ、書いてあり、発表もとても良かったです。主に視覚障害者の発表を聞いて回りましたが、植水小学校の周りとは新都心での違い、歩いた時の感じたことが、よく発表されていて感心しました。
- ・とてもよく勉強している児童さんもありました。この学習をきっかけにして常に感心をもっていればと思います。
- ・小学生なりの現状分析と感想がよくまとめられていました。
- ・特に高齢者に関することについては、自分のおじいさん、おばあさんにおきかえて、高齢者の立場やその身になっての安全や、やさしい対策が発表されていたように思います。
- ・いろいろな視点があることに驚きました。また、まとめ方にバラつきがありましたが、学習方法としてはプレゼンの方法も指導されると、分かり易くアピール度もあがると感じました。
- ・この体験を通して、子供たちは一様に植水を安全でやさしく住みよいまちにしたいと述べていました。是非できることから実践していくことを期待します。
- ・生徒さんたちと3回ともに学習しましたが、ともに生きることの大切さを学べ、弱い人たちへの気づき、心配りができ、植水地区が全ての人たちに暮らしやすいやさしいまちとなることを願っています。
- ・児童たちは、明るく発表していたのがよかった。まち歩きや体験学習時の写真等があるとよりよい。
- ・一人ひとりが、体験（まち歩きや障害者の身になっての歩行や、車椅子の試乗等）を通し、鋭い観察眼や、豊かな感受性を磨かれていました。発表も自信をもってなされ、友達の話にも耳を傾け、真剣に取り組んだと思います。私も大人にとっても学ぶ点が多くありました。
- ・1年間学んだ成果がよく出ていて、私も勉強になりました。
- ・大勢の人前で発表で、緊張していましたが、大きな声ではっきりと発表できていました。1年間学習してきたことがとても良く分かりました。
- ・障害者を助ける気持ちがめばえて嬉しいです。
- ・みんなしっかり調べてあって驚きました。子どもたちの成長を感じました。子どもたちが言っていたように道が狭く、でこぼこしているので道路の整備が進めばと思います。
- ・実際に当事者の方たちと交えての発表がよいと思いました。子どもたちの発表にも力が入っていたように思います。
- ・子供たちが自分が思っているよりも、周りをよく見たり調べたり、自分たちでどうした方が良いのかなどを考え、学習しているんだなと思いました。
- ・子供たちが障害について知る機会が今までになかったので、自分で調べ学ぶことができてよかったです。

II 本日の学習発表会及びこれまでの一連のモデル地区推進事業（体験学習やまち歩き学習）に参加され、お気づきの点や次年度への問題・課題、改善したほうが良いと思われたことがありましたら、お聞かせください。

- ・広い場所で区切りもなく、生徒は一生懸命発表してくれましたが、周りの声などもありよく聞こえない時もありま

したので、場所などもう少し改善していただきたいと思いました。

- ・もう少し、生徒たちと話をする時間がほしかったです。
- ・大きな体育館の中で、声をひろうことは健常者でもむずかしかったです。視覚が不自由な方や聴覚に障害のある方には理解できません。また、すべての発表を聞きたかったです。
- ・提案したことに対して、まちとして、市として少しでも具体的な策を提示していけたら、達成感が生まれ、次の活動に続けていける足がかりにもなると思います。
- ・初回の体験時は暑かったので、窓を開けるなどの配慮も欲しかったです。
- ・父兄や関係者の参加が増えるよう知恵をしばって参りたい。
- ・地域のことにもっと関心を持ち、子供と一緒に学んでいきたいと思いました。
- ・子供にとってとても良い経験、学習になったと思います。ありがとうございました。
- ・子供たちへ、色んな立場の人がいると知れる機会があつてよいと思いました。
- ・植水のまちが住みやすい所になってほしいです。
- ・ノーマライゼーションに関心をもつきっかけになり、大変よい取組と思う。発表では点字ブロックをふさがいないなどの話がでてこなかったのも、点字ブロックの使い方、マナーなども学習するとよいと思う。

発行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電話 048-829-1254

FAX 048-829-1961